



大井埠頭に新しいコンテナクレーンを設置

東京港のコンテナ埠頭は、物流の拠点港湾として、首都圏4千万人の生活と産業活動に欠くことのできない重要な役割を果たしています。その最前線で働くコンテナクレーンは、常に安定した稼働が要求されているため、老朽化したクレーンの計画的な更新が必要であるとともに、大型船の寄港にも応えられるようにクレーンの大型化が求められています。

当社では、大井埠頭の第2バースに設置しているクレーン2基について、20列対応の大型化クレーンへの更新工事を進め、4月5日に1基、10月27日には2基目が稼働することになりました。

これにより、より信頼性の高い荷役が可能となり、また20フィートコンテナを同時に2個吊ることが可能なツインスプレッダー方式の採用により、さらなる荷役効率の向上が期待できます。

当社は、今後ともユーザーの皆様の細かなニーズに応えながら、計画的に施設を整備してまいります。ご期待ください。



写真 新コンテナクレーンOC26号機（手前）とOC25号機（2列目）